

# 障害者の仕事創出へ

## 中京の企業 アウトドアブランド立ち上げ

障害者就労支援を手がける京都市中京区の企業が、アウトドア用品ブランドを立ち上げた。新型コロナウイルス禍で障害者の就職や実習先が減る中、新たな仕事を創出する目的。第1弾として個性的なデザインのたき火台を市内の別の企業と共同開発し、販売を始めた。

### 第1弾 たき火台開発

就労移行支援事業所などを運営する株式会社NAGOMI。精神、発達、知的障害のある人などが、個性や興味を生かして働けるよう支援を続けてきた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大後は企業が実習受け入れを中止したり、土産物の縫製業務の発注が無くなったりと、深刻な影響が出ているという。

そこで近年ブームが続くアウトドアに注目し、2020年から商品開発に着手。自身もキャンプ好きとたき火台は円筒型で、用途に応じて簡単に形を変え

いう本多和憲社長(38)が、海辺などでも使いやすい風よけ付きのたき火台を考案し、土肥板金工業(山科区)の協力で製品化にこぎつけた。

られるのが特徴。暖を取る際は風を遮る構造にし、調理時は五徳などを載せられる。サーファーをイメージしたブランド「CYRUS 9(サイラスナイン)」として展開し、今後はテント廃材を再利用した帽子を開発する予定。障害のある人は梱包や商品管理、企画開発などに携わる。

本多さんは「技術を持った京都の企業と協力し、利益や雇用を生み出せる事業に育てたい」と意気込む。クラウドファンディングサイト「マクアケ」で2月3日まで販売。4万円から。NAGOMI 075(746)6050。

(森静香)



用途に合わせて変形できるたき火台を開発し、販売を始めたNAGOMIの本多社長(京都市中京区)



調理時は五徳などを載せて使用できるたき火台(NAGOMI提供)